

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
元気いっぱい 笑顔いっぱい こども園 だ～い好き！” ～互いに認め合える心豊かな子どもをめざして～ 1 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 2 主体的に活動し、友達と関わりながら、夢中になって遊び込める環境を整え、持続力や協働力を育てる。 3 身近な人や地域とのかかわりをもつ力を育てる。 4 互いの良さを認め合い、心豊かに意欲的に活動する力を育てる。		○保護者と連携をもちながら、様々な行事や活動の内容を見直すことで、落ち着いた雰囲気の中、意欲的に生活や活動を進める教育・保育を行うことができた。 ○様々な実体験・感動体験の活動を通して、学びに向かおうとする姿勢や豊かな言葉力に繋げることができた。 ○園児が言葉で伝え合いながら主体的に協同活動を進めたことで、達成感や満足感を味わい自己肯定感に繋げることができた。 △子ども一人一人を受け止め関わることを心掛け、教育・保育を進めたが、それぞれの思いをしっかりと受け止め丁寧に関わることが充分とは言えなかった。 △職員の資質向上のための園内研修に努めてきたが、実施の仕方や時間を確保するための体制などが難しく、充分に行なえなかった。	・園児自らが生活の仕方や健康に関心を持ち、規則正しい生活が習慣になるようにする。 ・様々な実体験や感動体験を通して、豊かな感性や言葉の力を養う。 ・「楽しいこども園」を基本に、遊びを中心とした活動の中で、コミュニケーション力や持続力、学びに向かう力を育てる。 ・園児の主体的に取り組む姿を見守りながら、互いの良さを認め合い、他者と関わる力を育てる。 ・保護者が安心して子育てができるように、子育ての不安に寄り添いながら支援する。 ・地域に開かれた園として、情報発信に努める。 ・滑らかな接続ができるように、峰山学園（保幼小中一貫教育）の連携を深める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の推進（保幼小接続）	『峰山学園』の連携 ふるさとを愛し、多様な人とながら学び、探求し続ける子どもの育成 ・確かな学力の育成 ・コミュニケーション能力の育成 ・評価を見通した取組の充実	・峰山学園経営会議を通して園児・児童の実態を交流する中で、共通の目標をもち、主体的・対話的で深い学びを軸とした教育・保育を進める。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、幼児期から中学校まで一貫した指導を園内で共有する。 ・遊びを通して人と繋がる楽しさを味わい、ことばで伝え合う力を育む。 ・「保幼小の架け橋プログラム」を反映しながら、小1スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの検証を私立園や学園担任会と共に、教育・保育内容の理解を深める。	○経営会議や公開授業・公開保育を通して、互いの状況を把握し、課題意識をもちながら教育保育を進めることができた。 ○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を振り返りながら、園で大切にしていることを伝え、小中学校と連携をとることができた。 ○コミュニケーション能力の育成を大切にしながら遊びを充実させ、言葉力の向上につなげることができた。 ○スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムを担当保育教諭も一緒に見直ししながら、私立園や学園担任会を通して学園内で共通理解することができた。 △学園の研修会や公開授業などに保育教諭が参加する機会があまりもてず、実際に小中学校の様子を見て学ぶ機会とならなかった。

教育課程	・感動する体験や伝統行事などを大切にし、豊かな感性やコミュニケーション力を養う。 ・基本的な生活習慣や態度を育てる。 ・互いを認め合いながら、自分の思いや考えを表現したり行動したりし、意欲的に活動を進める力を養う。 ・日常的に園内外での安心・安全に過ごそうとする姿勢・態度を養う。	・園内外での感動体験や発見などを通して、考えたり工夫したりしながら生活や活動を行う。 ・挨拶を通して、人と関わることの心地よさを感じられるよう保護者会と連携し、あいさつ運動を実施したり、生活点検表などを作成したりして、生活習慣を整えていく。 ・互いを認め合いながら、園児が主体的に話し合ったり協同的な活動を進めたりできるように念密に計画をする。 ・人とのつながりの中で自分らしさを発揮し、自信をもって意欲的に活動を進められるよう環境を整える。 ・園児の生活や発達の状況を把握し、個々に合った助言や援助・指導を行う。 ・園外保育を通して、実際に交通ルールを体験したり、園内では生活や遊びを通して集団でのルールを園児と考えたり、知らせたりしながら、様々な場面での危機管理について学ぶ。	○様々な活動を通し、実体験や感動体験を大切にしながら教育・保育を進めることができた。 ○職員同士が同じ保育観をもちながら連携し、子ども達が主体的に取り組んで活動を進めることができるよう行事の在り方を再確認した。 ○子ども達の育ちの背景を職員間で共有し、助言や指導などを考えながら関わる事ができた。 △保護者会と協力しながら、あいさつ運動に取り組んだが、その時だけの活動や行動になってしまい、継続ができなかった。 △熱中症の危険から、園外散歩に出掛けて実際に交通ルールを体験したり考えたりする機会が十分にもてなかった。園内で交通ルールを学ぶ機会はあるが、子ども達が実際に体験する学びとしては不十分であった。
子育て支援	・子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。	・保護者の思いや不安な気持ちに寄り添いながら、相談がしやすい雰囲気をつくり丁寧に対応をする。 ・園開放や園庭開放・懇談会などを通し、保護者同士が交流し合える場を提供する。 ・園児や家庭の実態を把握し、保護者との連携を丁寧に行い、個々に合った支援や対応をする。	○相談しやすい雰囲気に心掛け、丁寧に対応することができた。また、職員からも率先して保護者に声を掛け、相談にのったり子育てについての話をしたりし、それぞれの不安に寄り添うことができた。 △個人懇談を中心として丁寧な対応はできたが、クラス懇談会など大勢で話す機会がもてず、保護者同士が気軽に交流できる場を提供することができなかった。
研修 (教員の 資質向上・ 人権教育)	・園内研修の充実を図り保育教諭の資質向上(人権を含む)に努める。 ・保育支援システムやICTの活用を効率よく進める。	・職員同士で保育の振り返りや意見交流などの時間をもったり、指導力や関わり方(人権)など学び合ったりするためにドキュメンテーション・公開保育・担任会・事例研修などを活用し、保育教諭の資質向上に努める。 ・保育支援システムを活用し、教育・保育の実践に活かすと共に、業務の見直しを進める。	○人権について、園内研修を重ね、職員の人権に対する意識改革、質の向上に繋げることができた。 ○各クラスや学年がドキュメンテーションを活用し、教育・保育を保護者に伝えたり、連絡事項や行事の様子など機会を見て、保護者に配信したりすることができた。 △ICTの活用は進んできているが、現状をふまえながら業務改善につながるような見直しを進めていく必要がある。
次年度に 向けた 改善の 方向性	・園の取組や活動などを積極的に配信し、一貫教育での縦の繋がりを大切にしながら職員も一緒に連携を深めていく。 ・実体験や感動体験を大切にしながら、様々な活動に子ども達が主体的に関われるよう進めていく。 ・活動や行事を振り返り工夫しながら、開かれた園として保護者や地域に取組を発信し、教育・保育を進めていく。 ・ICTの活用を進めながら、質の高い教育・保育の実践に努める。		